（C）日刊スポーツ新聞社

こどもスポーツ記者

ハイタッチキッズ

エスコートキッズ

110人が大会サポート「キッズプログラム」

2023ワールドトライアスロン・パラトライアスロンシリーズ横浜大会では、4年ぶりに「キッズプログラム」が実施され、応募総数154人の中から、抽選で選ばれた110人の子どもたちが参加した。本大会では、開催初年度である2009年に「世界こどもスポーツサミットｉｎ横浜」や「世界キッズトライアスロン大会」を同時開催し、その後も「キッズドリームフェスタ」や「キッズトライアスロンセミナー」などのキッズ関連事業を継続的に実施してきた。今回の「キッズプログラム」も、子どもたちがスポーツを通じて「する」「みる」「ささえる」ことの大切さを学び、競技に挑む世界のトップアスリートを間近に感じられる機会として企画された。

こどもスポーツ記者　10名

エリートパラトライアスロン・エリート女子のレースを撮影し、取材体験を行った。子どもたちは前日ワークショップでカメラの操作方法や新聞の書き方を教わり、大会当日はキヤノンのミラーレスカメラを構え、雨の中でも熱心にシャッターを切っていた。こどもスポーツ記者会見では、レース直後の秦由加子選手・米岡聡選手にそれぞれ質問を投げかけ、期待と緊張が入りまじった取材体験となった。このプログラムは、キヤノン・日刊スポーツ新聞社・大会事務局によるパートナーシップ事業として行われた。

ハイタッチキッズ　18名

エリート女子・エリート男子のスタートセレモニーで、スタート前の選手をハイタッチで送り出した。選手が集中力を高め緊迫する場面の中、子どもたちは堂々とセレモニーに参加し、ハイタッチとあふれる笑顔で選手にエールを送った。

エスコートキッズ　8名

エリート女子・エリート男子のメダルセレモニーで、表彰選手（１～３位）と手をつなぎ、表彰台までエスコート。セレモニー前には選手と写真撮影をするなど、世界のトップ選手との交流にワクワクした様子だった。

ブーケキッズ　9名

エリートパラトライアスロンのメダルセレモニーで、表彰選手（男子6、女子5カテゴリー１～３位）に花束を贈呈した。子どもたちが「Ｃｏｎｇｒａｔｕｌａｔｉｏｎｓ！」と声をかけると、選手が「Ｔｈａｎｋ　ｙｏｕ！」と返し、笑顔あふれるセレモニーとなった。

エイドキッズ　8名

フィニッシュ後のリカバリーエリアで、レースを終えた選手にタオルやドリンクを手渡した。最初は緊張して声をかけられなかった子も、最後にはジェスチャーを交えて一生懸命選手に声をかけている姿が印象的だった。

キッズ応援隊　57名

フィニッシュ前最後の直線コースを駆け抜けていく選手を、大きな声で応援した。子どもたちは、エリート女子のレース終了後に特別観覧エリアに登場した高橋侑子選手と池野みのり選手と一緒に、エリート男子の応援や記念撮影をするなど、トップ選手との交流を楽しんだ。

ブーケキッズ

エイドキッズ

キッズ応援隊

横浜こどもスポーツ基金
寄附金 募集
障害のあるこども達等へ「スポーツ」を通じて、夢と希望を持って育ち、身近な地域でスポーツ活動に参加できる環境作りに寄附をお願いします。
お申し込み
お問い合わせ
http://yokohama-csf.jp/
HPの「お問い合わせ」ボタンよりメールにてお申し付けください。
©Ai Ueda/JTU
Yokohama Children Sports Foundation

10人のキッズ記者が見た撮った思った

もっと笑顔になってみよう

齊藤　大起（さいとう　ひろき）（小学6年生）

「いざ出陣」のような力強い背中で迫力があった義足の選手。後ろから追いつかれそうであせっているように見えるオーストラリアのブライアント選手。日本のかしき選手とガイドの人は終盤ながらもニコニコ笑顔を見せていた。苦悶の表情をうかべているガイドさんをまるで先導するかのように走っているスペインのロドリゲス選手。エリートクラスの選手は体のどこかに障がいがあってもものすごい強くて2時間ものレースを走りぬけていた。

レースの間ずっといっしょに選手と走っているガイドさんの体力がすごくてびっくりした。しかもかしき選手とガイドさんはつかれているにもかかわらずニコニコしていて楽しそうだった。いつもぼくはニコニコしているけどもっともっと笑顔になってみようと思った。

横浜でライバルの戦い

ABSOUS　Matthieu（アブスー　マチュウ）（小学6年生）

5月13日の横浜パラトライアスロンにはフランス人男子6人が出ました。その中にはアレクシ・アンカンカンがいます。アレクシは今回の大会で1位でした。アレクシはフィニッシュ後このように言いました。「2023シーズンの初レースとして、勝てたのは良かった。とても幸せだ。新しいシーズンを迎えて興奮している。私のより大きな目標であるパリ2024に向けて準備はできている。横浜（大会）はいつも雨だけど、それは重要なことじゃない。トライアスロンに適した土地だ。とてもよかった」

アレクシは横浜大会を2018年から出場し、5大会全て1位でした。アレクシは子どもの頃からスポーツが好きで、フルコンタクト系の格闘技でフランス大会のタイトルをもっていたが、事故で右足をなくしてしまってからトライアスロンを始めました。

彼は宇田秀生の昔からのライバルで、アレクシは一昨年のパラリンピックで1位で宇田は2位でした。宇田は、今回の大会、4位だったから次に向けて頑張りますと言っていました。

全力のすがた かっこいい

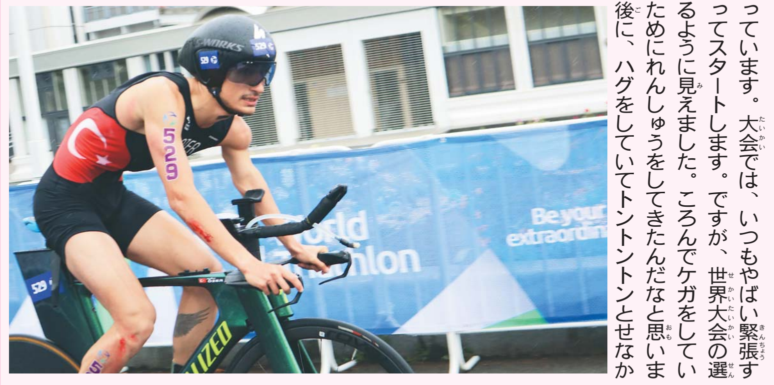
河野　丞太郎（こうの　じょうたろう）（小学6年生）

僕は、トライアスロンを見てトライアスロンの選手はとてもすごいと思いました。トライアスロンはスイム・バイク・ランの3つの種目をやるけど、最後のランでもまったく疲れがないような走りがすごいと思いました。トライアスロンを間近で見てバイクは気づいたら通り過ぎているぐらいのものすごいスピードで、全力で取り組んでいるすがたがわかってかっこいいなと思いました。スタートの時選手はとても緊張しているようすだったけどゴールの時は笑顔だったし、観客にハイタッチする選手もいてトライアスロンを見ている方もやっている選手も楽しそうでした。選手は障がい者だけど、自分に自信をもって、のびのびやっていたし本当に障がいがあるの？という感じでトライアスロンは障がいがあってもなくても楽しめる競技ですごいとあらためて思いました。選手もトライアスロンも僕の思った以上に迫力のある競技だったのでまたこういう機会があったら、トライアスロンを見たいと思いました。

プランをたてて準備をして

亀井　健新（かめい　けんしん）（小学5年生）

ぼくは、トライアスロンをやっています。大会では、いつもやばい緊張する、だいじょうぶかな？と思ってスタートします。ですが、世界大会の選手たちは緊張よりも集中しているように見えました。ころんでケガをしていた選手がいて、本当にこの日のためにれんしゅうをしてきたんだなと思いました。ちがう国の選手がゴール後に、ハグをしていてトントントンとせなかをやさしくたたいて心がつながったように、「がんばったね」って言っているように見えて感動しました。ぼくは世界の選手たちがれんしゅうをつみかさねて一生けん命にトップ争いをしている所がすごいなと思いました。インタビューで、はた選手が「世界の選手と戦うわたしの人生ってすごいな」と言っていました。それを聞いてぼくもすごいなって思いました。よねおか選手は、大会のレース前のプランを立てていると言っていました。ぼくもよねおか選手みたいにプランをたてて、大会前は何をやるのか準備をして緊張しないように大会にとりくみたいと思いました。



選手に教わった2つの言葉

積田　莉李（つみた　りり）（小学6年生）

5月13日ワールドトライアスロン・パラトライアスロンシリーズがおこなわれました。この日は少し強い雨がふっていて、とてもはく力のある音楽が流れている中、私はカメラをかまえていました。私がとても印象に残ったのは、ラン。最後の力をふりしぼってゴールまで進んでいるのがとてもたくましく見えました。レース後インタビューに答えてくださったのは、秦由加子選手と米岡聡選手。心にとっても残った言葉は、2つあります。秦由加子選手の「がんばってやるの？　やらないの？　やるよね。いままでもっと辛かったことあるよね」と、自分に質問して頑張ろう！と思う言葉と、米岡聡選手の「自分の行動に、みあった行動をする」という自分の行動を良くしようとする言葉のふたつです。私は今回選手から学んだ、今までこれよりもっとつらいことがあったと思い出して、今を頑張る気持ちと、自分の行動を目標に近づけるための行動をする。この2つの言葉を大切にして私もがんばろうと思います。

バイクの速さにびっくり

中野　帆乃美（なかの　ほのみ）（小学6年生）

5月13日、ワールドトライアスロン・パラトライアスロンシリーズ横浜大会が開催されました。みなさんはパラトライアスロンを知っていますか？トライは3、アスロンは競技という意味で3競技はスイム、バイク、ランのことです。

私がおどろいたことは、バイクの速さです。普通の自転車より何倍も速かったです。カメラを構えていても、すぐに通りすぎてしまって写真をとるのが難しかったです。秦選手に「トライアスロンをするときに一番大切にしていることは何ですか？」と聞いたら、「楽しむこと」と答えてくれました。秦選手がきついときに自分がどれだけたえられるのかと考えていると聞きました。この言葉には秦選手の笑顔のひけつがこめられているのだと思いました。

私は、この大会でたくさんの選手に勇気をもらったので、これからトライアスロンをもっと知り、応援をしていきたいと思います。